

製品名: リン酸化 FOXO3a(S253)ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号:** AMRe83791

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:100-1:200
分子量	Calculated MW: 71 kDa ; Observed MW: 97 kDa

抗原情報

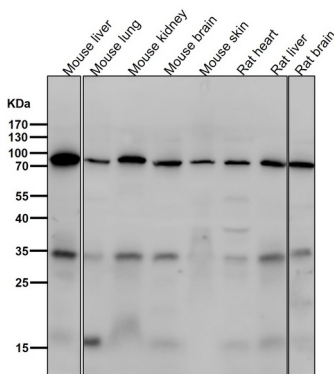
遺伝子名	Phospho-FOXO3a(S253)
別名	AF6q21 protein; FKHR2; FKHRL1; Forkhead box O3; forkhead box O3A; Forkhead box protein O3A; Forkhead in rhabdomyosarcoma-like 1; FOXO3A;;p-FOXO3A (S253)
遺伝子 ID	
SwissProt ID	O43524
免疫原	S253 のリン酸化部位周辺のヒト FOXO3A 由来の合成ペプチド

背景

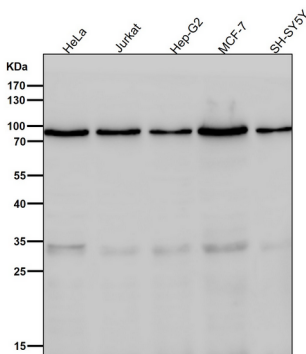
DNA 配列 5'-[AG]TAAA[TC]A-3'を認識して結合し、アポトーシスやオートファジーなどのさまざまなプロセスを制御する転写活性化因子。骨格筋におけるオートファジーの正の調節因子として作用：飢餓細胞では、脱リン酸化後に核に入り、GABARAP1L、MAP1LC3B、ATG12などのオートファジー遺伝子のプロモーターに結合してそれらの発現を活性化し、骨格筋タンパク質のタンパク質分解を引き起こします。酸化ストレスによる神経細胞死など、生存因子がない場合にアポトーシスを誘発します。MYCの転写後制御に関与：MAPKAPK5によるリン酸化後、MYC転写産物の3'UTRに結合するMYCの2つの転写後制御因子であるmiR-34bおよびmiR-34cの発現誘導を促進します。代謝ストレスに反応してミトコンドリアに移行し、mtDNAの転写を促進します (PubMed:23283301)。代謝ストレスに反応してミトコンドリアに移行し、mtDNAの転写を促進します。また、脂質の利用可能性に応じて骨格前駆細胞の軟骨形成コミットメントの重要な調節因子としても機能します。脂質レベルが低い場合、核に移行し、軟骨形成コミットメントを誘導し、脂肪酸の酸化を抑制するSOX9の発現を促進します (類似性による)。また、FOXP3の発現を活性化することにより、制御性T細胞 (Treg) の分化の重要な調節因子としても機能します (PubMed:30513302)。

研究分野

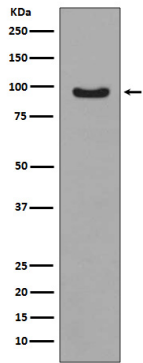
画像データ



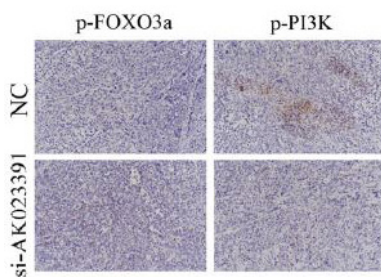
すべてのレーンでは、抗体を 1:1K に希釈して室温で 1 時間使用します。



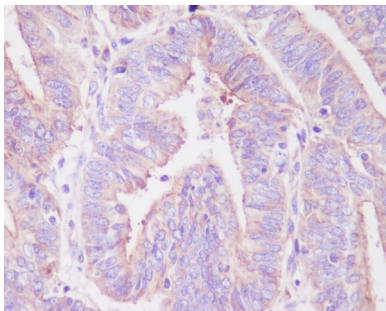
すべてのレーンでは、抗体を 1:1K に希釈して室温で 1 時間使用します。



IGF 処理した MCF-7 細胞溶解物における Phospho-FoxO3a (S253) 発現のウエスタンブロット分析。



LncRNA AK023391 は、PI3K/Akt シグナル伝達経路の活性化を介して胃癌の腫瘍形成と浸潤を促進する。-実験・臨床癌研究ジャーナル



リン酸化 FoxO3a (S253) 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト子宮癌の免疫組織化学分析。